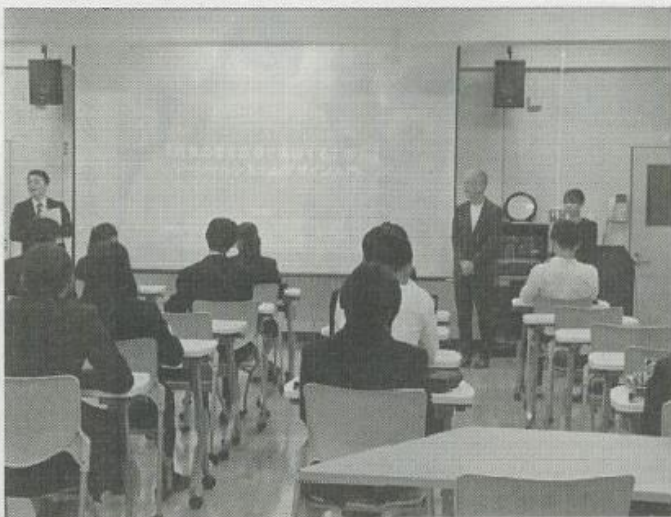


# 御調高校で講演会

## 叡啓大学・保井俊之教授を迎えて



会起業家・社会の変革者。

チェンジリーダーは、社会・会社・学校、家を前向きに変えていくリーダーで3つの役割がある。①みんなが向かうべき方向(北極星)を示す。②人・モノ・お金・技術をその方向に配置する。③みんなのやる気(モチベーション)を上げる。

日本の大学卒業生が比較的弱いとされているのが「なぜ?」を発し続ける力。問を立てる力・論理的な思考力・クリティカル思考。日本の大卒の「思考スキルセット」は141か国中42位。論理的に本質を問いかける。知識や当たり前と

自分の夢がどう繋がるのか論理的に説明できるようにする。まとめ。社会の現状に本質的な問いを立て、自分にも他人にも、地球にもともに幸せをデザインする学習である。終わり。その後、2年生5人が総合的な探究の時間で自分の研究テーマについて、スライドで説明・報告を行った。それに對し、保井教授と角森さんがそれぞれ適切なコメントを行った。有意義な会が終了した。

〔住貞義臣〕

15日(金)午後、御調高校(富永六郎校長)つた会館で、1年生全員を対象に、叡啓大学保井俊之教授(学部長)が、「将来の夢を自分で実現する工学」という演題でスライドを使用しながら分かり易く話された。御調高校から叡啓大学に進学し4年の角森巴海さんも同席した。

講演要旨：今後30年間のうちに、AI・ロボットに仕事もとって代えられる。人間の仕事として残るのは、人の心を癒したりする職業、これまでにない事態に對応する職業である。

学問も、今ある「就職に有利な学問」もほぼ消え、デザイン・創造癒しの担い手になる学問が興隆する。22世

紀を生き抜く人財とは、学びができる人でなく、創れる人。仕事もできる人でなく創れる人。

ソーシャルシステムデザインとは、クリティカル思考「本質的な問いを立てる」力。「木を見て森も見ろ」力。ありたい未来を実現する力。世の中にこれまでなかった新しい価値(わくわくするもの・こと)を社会に創る。などなどこれまでのやり方にとらわれな

い問題解決の考え方。イノベーションは、おカネも上げのためではない。ソーシャルイノベーション↓幸せのために社会にイノベーションを起こす。ソーシャルイノベーションを起こす人↓社